

長月を迎えて

分所長 高木 敏彦

暑かった今年の夏ですが、月が替わりやつと涼しくなってきました。第7派のコロナウイルスのまん延状況は終わりを見せない毎日ですの
で、引き続き感染対策に努めたいものです。

さて、来月十月の三河本苑大祭には約十年ぶりの教主様の御親教が予定されています。沢山の信徒の皆様と一緒に祝いさせて頂きたいと思います。各組長さんより参拝者の確認をしますので、ご家族の皆さんと揃ってご参拝下さい。

東北日記 六の巻

出口 王仁三郎

「オイケンがどういった。マルクスがこう言った」と個々の人々の抱いた思想について深くこれを究めることは専門家の仕事であつて、全ての人間が専門家同様の研究を重ねんとするのは無理である。普通のわれわれは各学者の学説を通観しただけで常識的の頭をつくらねばならぬ。

少なくとも一瞥しただけでその取捨選択を誤らないだけの常識を持つておらねばならぬ。政治の経過においても政治的歴史から見ても大抵わかること、西洋諸国には古来幾回かの人種の大移動を繰り返してきた。前の人種を後の人種が全滅する。優等人種が出てこれに

代わり、全滅戦に次ぐに全滅戦をもって今日にいたつたので、残虐の継続が今日を築き上げたものと見られる。そして西洋思想は実にここから生まれている。地上の草木を知ろうとするならまずもつてその土地を十分に調べてみなくてはならぬ。

しかるに日本人にして日本を知らないものがある。日本に生まれ日本に育ちながら日本の歴史、日本人の習慣性などについては全くこれを知ろうとさえ務めるものなき時代である。日本人の言葉といえば浅薄なもの、西洋人の言うことなれば必ずそれが真理であるように早のみ込みするようになってしまつては始末に困る次第である。

日本の刀剣についてさえドイツに聞かなければ分からぬなどは沙汰の限りである。

特に今日の青い連中の読物は全て西洋の物、語るところもまた西洋のもので日本は昨日まで未開野蛮国であつたのだ、西洋のお蔭で自他共に知識階級と称して怪しまない。こんなことでは日本の神国も前途はなほだ寒心の至りである。まずこの迷信を打破することに努め、日本人には日本固有の真の文明を知悉せしむることが刻下の急務である。われわれ日本人が現代人から迷妄とのしられ山カンと嘲笑されながらも人類社会のため国家国民のために昼夜不断の活動を続けているのも国家の前途を憂うのあまりに他ならないのである。

主な行事予定

九月一日(日) 午後一時半より

碧南分所月次祭 担当第三班

全国一斉平和祈願 午後7時より

九月一八日(日) 午前10時より

三河本苑月次祭

十月九日(日) 午後一時半より

碧南分所月次祭 担当第一班

十月一六日(日) 午前10時より

三河本苑秋季大祭

冠沓句募集

冠句「新しく」「三河から」「ユルして」「大和合」

沓句「第一歩」「神の家」

締め切り 九月一八日(日)本苑月次祭

参拝時には「マイボトル」「マイ箸」「マ

イ祝詞」を持参しましょう！

9月の誕生者

おめでとつございます！

市古美弥子 岡本 勝 四日 杉浦 陽子 堀
江あゆみ 九日 奥谷久美子 三浦 幹太郎
一〇日 鈴木さやか 一八日 高橋 英彦 一
九日 萩原 芳美 二〇日 角谷 満代 二四
日 三浦 晃子 二八日 蒲生 和高 三〇日